



五十首くらいは子どもはすぐにおぼえる。現在は、小学生の「信綱かるた大会」のようなこともやっているらしい。ところで、昨日、東京で信綱研究会があった。高山君もがんばって、やってきていますね。

**高山** 昨日は朋子さんが来てくださいました。

**幸綱** 信綱のこと、あるいは信綱の周辺あれこれも、忘れずにみんなで研究してくれているわけですが、鈴鹿の「信綱顕彰歌会」が二〇二一年に、五十回目を迎えました。最初のころはずっと安藤寛さんが行ってくれました。年に一回、鈴鹿市の信綱記念館に全国から百二十人ほどが集まって、四百首くらい歌を集めて、選ばれた人を表彰しています。鈴鹿市も一生懸命やってくれて、ずっと続いています。

最初はずっと安藤寛さんが出席してくれました。一九八九年から僕が出るようになり、それから毎年出てる。もう三十年になりますね。三、四年前から、頼綱も出てきています。十二月二日が信綱の命日で、その前後に開催しています。ついでに言うと、信綱の誕生日、六月三日前後に熱海で会をやっている。

**加古** 名古屋歌会の人はその会を楽しみにしているんですよ、夜に先生を囲んで一杯やれるというので。東京以外の歌会の人たちはそういう機会が減多にないから。

**幸綱** 名古屋の歌会の人たちも石薬師まで来てくれるわけです。すると必ず飲むわけですね。そのとき、「心の花」に、勝手にしゃべって、昔話をしたり聞いたりする欄があるといいなあと犬飼亮介君が提案してくれて、この企画ができた。この欄の産みの親

は犬飼君なんだ。前に話した気がするなあ(笑)。

**黒岩** Facebookに、明日は年内最後の歌の関係の仕事で、師匠の御宅にお邪魔して、ほろ酔いインタビュードと書くと、犬飼さんが必ず、「あれは私が提唱して始まったものです」みたいな(笑)。

**幸綱** そのとおり。

**高山** 今の「元祖ほろ酔いインタビュ」の話はその通りだと思いますが、正確な経緯を言うと、それは別にぼくが編集部で提案してこの企画が始まったわけ。

**黒岩** 実際やるにあたっては……。

**高山** 先生はお忘れになっっているようで淋しいですけど、犬飼さんのご提案が先生の心に響いていたということはよく分かりました(涙)。

**黒岩** 「やったらいよいよアドバイスはあったけど、実際に始めたのは高山だ」と。そこはちゃんと押さえておかないとね(笑)。

**加古** この年は(石薬師に近い)鈴鹿市文化会館の「けやきホール」に「夏は来ぬ」の綴帳ができました。

**幸綱** そうそう。鈴鹿はホンダと関係があるから、鈴鹿の記念館の何かのイベントで、本田宗一郎の奥さんと隣り合わせでいろいろ話をすることがありました。本田宗一郎さんには残念ながら会えなかったん